

NAGOYA NOH THEATER
DECEMBER 2015

平成27年

12月6日(日)

12:30開演(12:00開場)

前売券発売10月6日(火)



新作能面を披露します

福井県池田町の「第13回全国新作能面公募展」において、審査員特別賞 観世流シテ方久田勘助選の能面「孫次郎」(作者:井上忠夫さん/東京都)を本公演の能「船弁慶」の前シテで使用します。



撮影: 瀬野雅樹

名古屋能楽堂

十二月特別公演

—— 徳川家康公没後四百年記念「家康ゆかりの能」——

能

「船弁慶」(観世流)
シテ 瀬戸洋子

舞囃子

「安宅」(金剛流)
シテ 熊谷真知子

狂言

「髭櫓」(和泉流)
シテ 野村又三郎

能

「玉葛」(宝生流)
シテ 玉井博祐



撮影: 杉浦賢次

ご来場の方に抽選で
素敵なプレゼント!

本公演にご来場の方の中から抽選で各10名様に能楽グッズをプレゼントします。

※ご入場の際にお配りするパンフレットに応募券(ご応募の締切は休憩終了まで)が入っておりますのでご確認ください。

関ヶ原の合戦の翌年、慶長六年[1601]三月十一日、大阪城にて、家康は豊臣秀頼を能七番狂言五番の上演で饗応した。翌日には、その返礼として秀頼が家康をもてなし、能九番狂言二番が上演された。〈船弁慶〉は十一日に〈玉葛〉は翌十二日に上演された演目である。慶長四年には大阪城西の丸に入り、秀吉死後の政権の中心となっていた家康であるが、関ヶ原の合戦が収束を迎えた慶長五年九月二七日、ふたたび西の丸へと入った。その翌年、家康は豊臣家に対してどのような思惑を抱きながら、秀頼らと共に能や狂言を観たのであろうか。

主催



公益社団法人

名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂]

公益社団法人 能楽協会 名古屋支部



仕舞

柏崎 (金春流)

シテ

地謡

前田 雅弘
鬼頭 尚久
小島 芳樹
小野瀬 樹

休憩十五分

地謡

大橋 則夫
佐藤 融
井上 松次郎
今枝 郁雄

後見

大野 誠

太鼓

河村 総一郎

小鼓

後藤 嘉津幸

笛

大野 誠

立衆

松田 高義

立衆

伊藤 俊彦

立衆

伴野 徹

立衆

藤波 隆行

立衆

野口 蒼大

立衆

井上 裕

立衆

鹿島 俊裕

立衆

野村 又三郎

立衆

妻 進

立衆

注進の者

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

立衆

妻 進

狂言

髭櫓 (和泉流)

地謡

内藤 飛能
石森 幸能
津田 節哉
片桐 真真
後見

後見

竹内 澄子

小鼓

衣斐 愛

大鼓

河村 総一郎

後藤 孝一

大野 誠

佐藤 融

飯富 雅介

玉井 博祐

玉井 博祐

玉井 博祐

玉井 博祐

玉井 博祐

玉井 博祐

玉井 博祐

玉井 博祐

玉井 博祐

玉井 博祐

能

玉葛 (宝生流)

アイ

里の男

ワキ

旅の僧

後シテ

玉葛の内侍

前シテ

里女

シテ

玉井 博祐

シテ

玉井 博祐

シテ

玉井 博祐

シテ

玉井 博祐

シテ

玉井 博祐

シテ

玉井 博祐

仕舞

是界 (喜多流)

シテ

松井 俊介

シテ

伊藤 英毅

シテ

長田 郷

シテ

長田 郷

シテ

長田 郷

シテ

長田 郷

シテ

長田 郷

シテ

長田 郷

シテ

長田 郷

シテ

長田 郷

能

船弁慶 (観世流)

地謡

田中 春奈
鈴木 昌美
大川 磨美
加藤 孝一
伊藤 雅子
羽多野 良子

小鼓

大野 誠

大鼓

河村 真之介

後藤 嘉津幸

加藤 孝一

伊藤 雅子

羽多野 良子

伊藤 雅子

羽多野 良子

伊藤 雅子

羽多野 良子

伊藤 雅子

羽多野 良子

伊藤 雅子

羽多野 良子

伊藤 雅子

羽多野 良子

伊藤 雅子

羽多野 良子

伊藤 雅子

羽多野 良子

伊藤 雅子

羽多野 良子

◆能解説「玉葛」

(たまかざり)

旅の僧が初瀬の長谷観音へ参詣に訪れる途中、川に着くと川舟を操る女が現れます。不審に思い尋ねると、自分も長谷寺へ参る者で、「海士小舟初瀬の川」と古歌にも詠まれているとい、僧を二木の杉に案内し、『源氏物語』の玉葛の話の聞かせます。僧が「二木の杉の立所を尋ねずは古川野辺に君を見まじや」という古歌のいわれを尋ねると、女は、玉葛の内侍が筑紫から都へ逃げ上り、ここで亡母の顔の侍女に会ったとき、右近が詠んだ歌であるとい、自分はその玉葛の亡霊であるとのめかして消えます。中々僧が哀れに思い引いていると、玉葛の霊が現れ、恋の迷いによる忘執の苦しみから抜け出せない身なのだ打ち明け、狂い舞いますが、やがて昔のことを懺悔して仏の教えにすがり、成仏したとみるや、僧の夢も覚めました。

◆狂言解説「髭櫓」

(ひげやぐら)

洛中一番の大髭を持つ男が、その髭を見込まれ大嘗会での鉾の大役を担う事に。晴れの儀式を控え妻に身嗜みを頼みますが、妻にとつての髭はむさ苦しいばかりの疎ましい象徴。その上衣装を用意する金策もないと断られると...。夫婦の口論から生じる演目は「鎌腹」などにも見受けられますが、本曲は些細な言い争いが大事の騒動に発展してゆく可笑しさを秘めています。それでいてどの家庭にも起こり得るような、他人事と笑って見られない作品です。『大嘗会(だいじょうえ)』とは、もとは天皇の即位後、天皇自らが収穫した初めての新穀を神々に供える祭事のこと。天皇一代に一度だけ行われるとされ、現代では大嘗祭(だいじょうさい)とも呼び、新嘗祭にいなめさい)に引き継がれている。

◆能解説「船弁慶」

(ふなべんけい)

源義経は平家追討に武功を立てますが、兄頼朝から疑いをかけられ、追われる身となります。西国落ちを決意した義経は弁慶や従者と共に都を出て、摂津国大物浦に到着します。弁慶は、義経を慕ってついて来た静御前を都へ戻すように義経に進言します。都へ帰る静御前のため、名残りの酒宴が開かれ、静は義経の不運を嘆きつつ、別れの舞を舞います。中々義経の一行が船出すると、海上がにわか荒れはじめ、壇ノ浦の戦いで滅んだ平家一門の怨霊が波間に現れます。なかでも平知盛の怨霊は、義経を海に沈めようとして長刀を持って襲いかかって来ますが、弁慶の祈りの力に負けて怨霊は波間に遠ざかっていきます。

チケット料金(税込) * 前売券発売日 平成27年10月6日(火)

	指 定 Reserved	自由 Non reserved plus ¥500, on the day	
		一般 Adult	学生 Student under 25 years old
前 売 Advance sale	5,200円	4,100円	2,100円

*当日券は自由席のみ500円増となります。 *学生券は25歳以下を対象とします。

*事業団友の会 会員は1割引
(名古屋能楽堂・名古屋市文化振興事業団チケットガイド・事業団施設窓口の前売のみ)

*上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は、事前に許可を受けた方以外はご遠慮下さい。*未就学児のご入場はお断りいたします。

前売券取扱所 Ticket Office

名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088
名古屋市文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387
(平日9:00~17:00/チケット郵送可)

*名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口と土日祝日も営業>でもお求めいただけます。

中京テレビ事業/TEL.052-957-3333

栄プレチケ92/TEL.052-953-0777

チケットぴあ/TEL.0570-02-9999 (Pコード 447-037)

*お近くのセブンイレブン、サークルKサンクスでもお買い求めいただけます。

*都合により出演者等が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

*外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも1割引致します。(名古屋能楽堂取扱いのみ)

To visitors who bring their passports or the likes which prove respective foreign nationalities, advance/day tickets are available at a 10% discount. (at Nagoya Noh Theater only)

●イヤホンガイド 演能の解説が聞ける受信機を無料でお貸しします。(日本語/英語) Noh performance Guide/Rent-free for a wireless headset(Japanese/English)

●併設の「御食事処 城」(184席/052-222-6699)がご利用いただけます。

お問い合わせ/名古屋能楽堂 TEL.052-231-0088 FAX.052-231-8756 http://www.bunka758.or.jp

このチラシは、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

